

多様な視点養う契機に

楠隼高校

(肝付町)

実践校4年目。校内や学校寮に新聞各紙を置いて、読み比べによ



新聞記事を題材に意見発表する生徒ら
Ⅱ肝付町の楠隼高校

る思考力や読解力を深める環境をつくる。担当の二宮勇貴教諭(35)は「異なる意見に耳を傾け、対話する力が身に付いている」と手応えを語る。

2022年度は1、2年生が地理歴史科目で活用。元徴用工訴訟問題を巡る記事に自分の意見を述べるなど、「歴史と現代のつながり」を意識した学びへつなげた。見解の多様性を実感しようと、テーマに沿って記事を選び意見を出し合う取り組みを進める。2年のクラスでは、大学入学共通テストの記事を端緒に「離島受験生の心情」や「平等な試験機会の在り方」を議論した。前田夕輝さんは「どんな小さな記事でも問題意識の持ち方は人それぞれだ、と気付かされる」と話した。(中映貴稔)

かごしま



NIE実践校

英字新聞で興味を育む

れいめい中学校

(薩摩川内市)



英字新聞を使って学習する生徒ら
＝薩摩川内市のれいめい中学校

ニュースを選びました」。男子生徒が英語の記事をスクリーンに映し説明を始めた。

1年生がテーマに沿った記事を集めて壁新聞を作り、話題を共有するワークショップ「回し読み新聞」に取り組み。実践校3年目の本年度は、3年生の英語の授業で英字新聞を使った学習も始めた。生徒はグループに分かれ、見出しで気になった記事を選び、タブレッツト端末も使いながら内容を要約。日本語で独自のタイトルを付け、学習で気付いた感想もまとめる。

「3年後の大学入試への意識付けも狙った取り組み」と有馬智美教諭(43)。「新聞を通して文字に触れることの大切さに気付き、興味深さを育めるのではという期待もある」

(高嶺千史)